

船橋市の水域の生態系ネットワーク

船橋市における水域の生態系ネットワークの現状を把握するため、市域における植生分布図（自然環境区分マップ）を基に、指標種の生息環境を踏まえた検討を行いました。

指標種の選定方針は以下に示すとおりであり、船橋市では、水域のネットワークを評価するための指標としてトンボ類を選定しました。

【指標種の選定方針】

- ① 飛翔能力・移動能力が高い（移動能力が低い地表徘徊性の動物は選定しない）
- ② 見つけやすく識別が容易（調査で確認しやすい）
- ③ 生息条件が比較的明確で、環境指標性が高い
- ④ 人との共存が可能（ある程度の都市でも生息できる）
- ⑤ 評価指標となる生きものは、樹林地、草地等の陸域を主な生息環境とする種、水辺を主な生息環境とする種をそれぞれ設定する



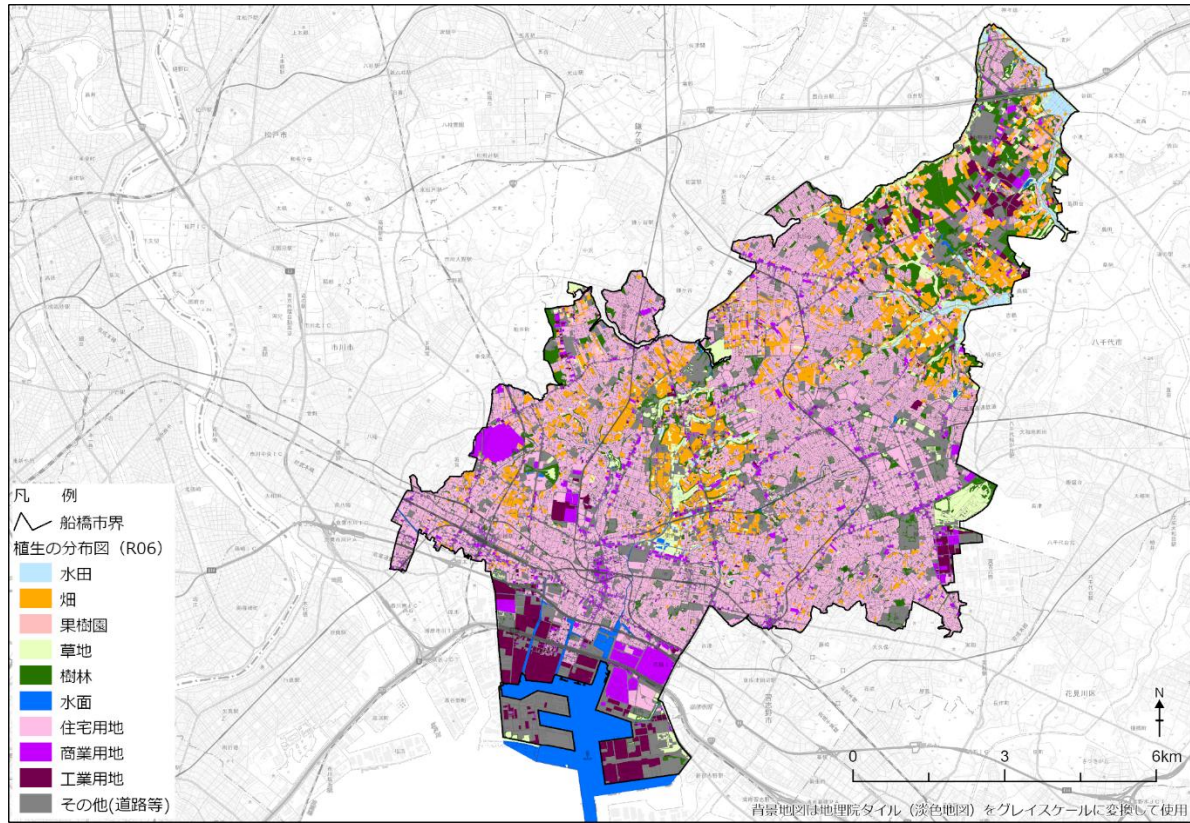
【指標種の選定結果】

水域のネットワーク ：トンボ類

また、指標種の生息環境や行動範囲等の条件（既往文献における知見を基に設定）は以下に示すとおりであり、コアエリアとバッファークゾーンの分布から生態系ネットワークの状態を評価しました。

指標種	①生息環境 (コアエリア)	②行動範囲 (バッファークゾーン)
トンボ類	水域	水域から 350m の範囲

コアエリアとする水域（生息環境）については、市域における植生分布図（自然環境区分マップ）から、「水田」と「水面」を抽出しました。

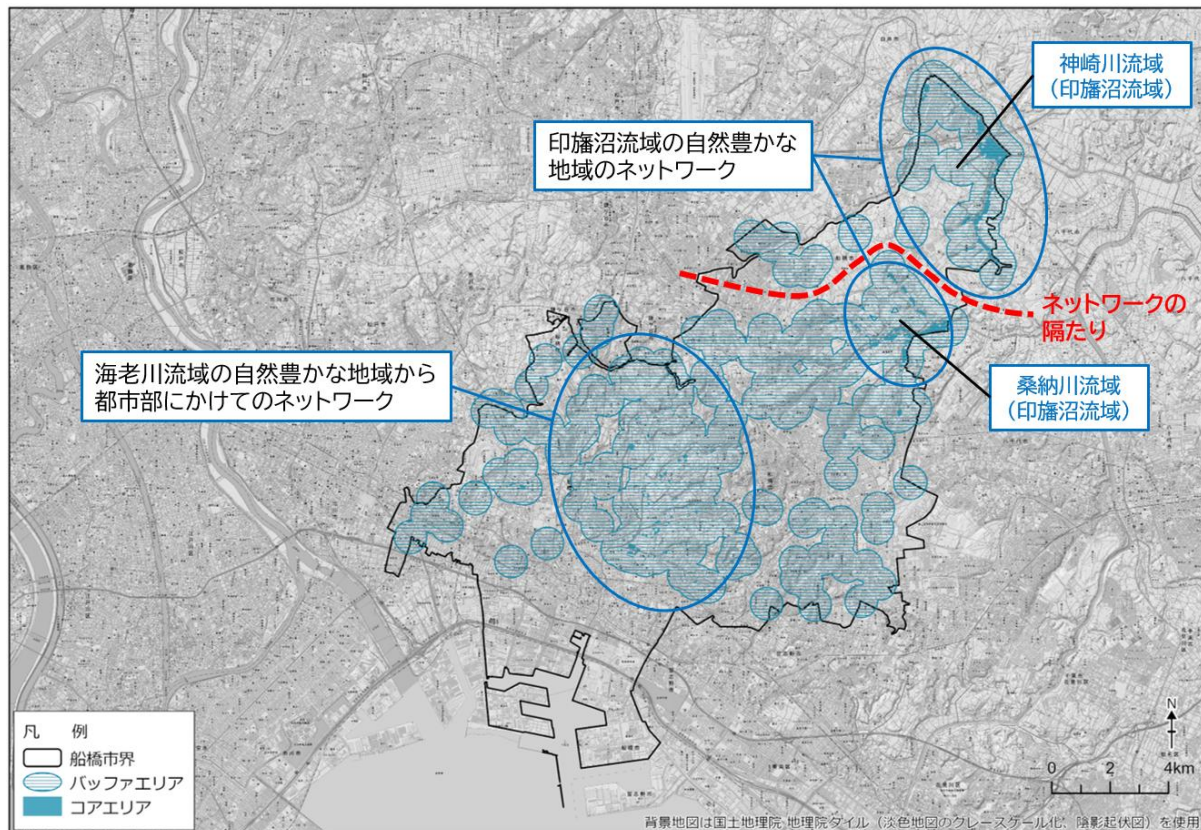


船橋市の植生分布図（自然環境区分マップ）

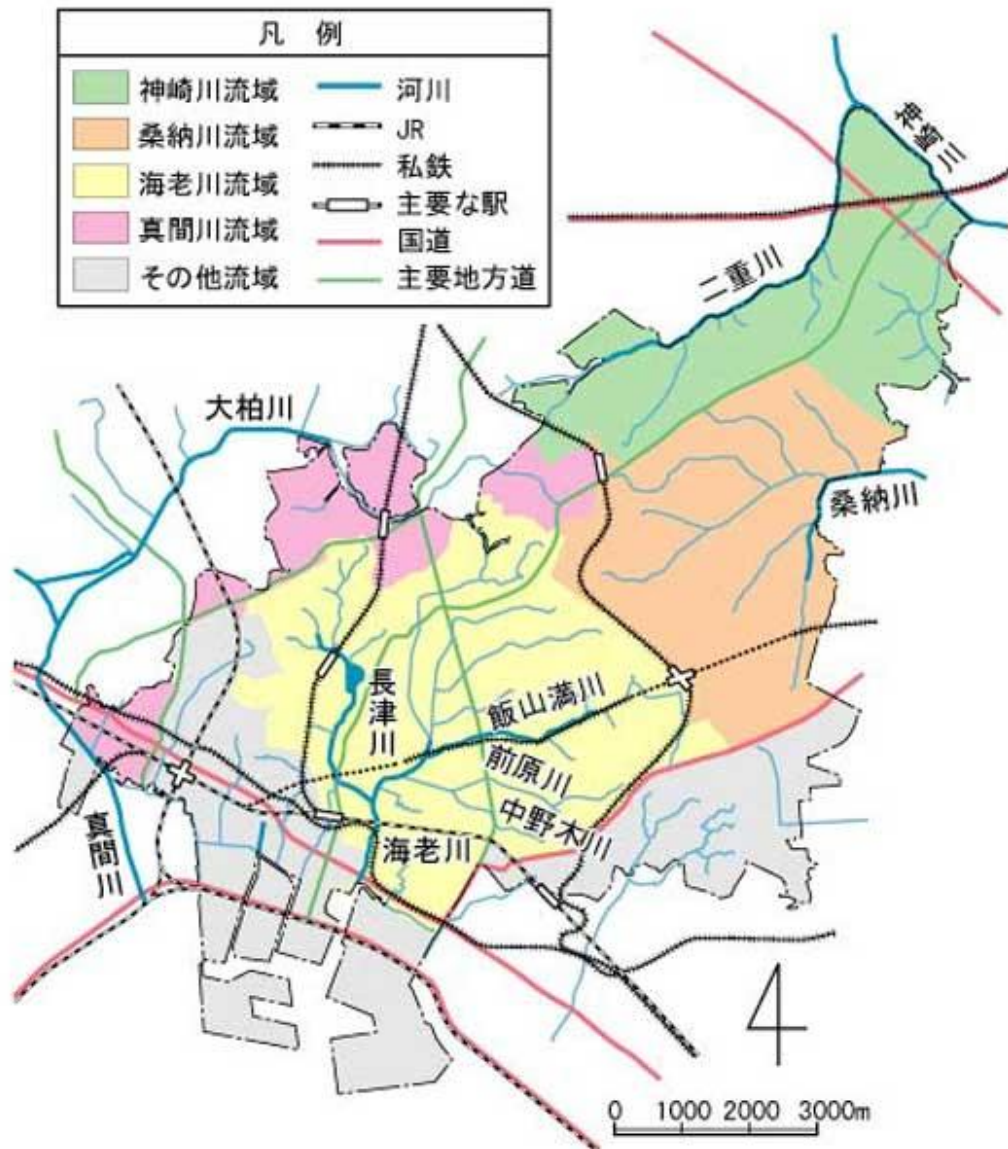
市内の水域のネットワーク(水域から350mの範囲)を示した図を以下に示します。

印旛沼流域の自然豊かな地域や海老川流域の自然豊かな地域から都市部にかけての地域では、水田を中心としたまとまったネットワークが形成されています。

一方で、北部の一部の地域で水域のネットワークの隔たりが見られますが、北側のネットワークは神崎川流域に、南側のネットワークは桑納川流域に属しています。



生態系ネットワークの評価結果 (水域)



【参考】 船橋市流域概要図（船橋市ホームページより）